



JR東労組 八王子

HACHIOJI



ホームページ

発行責任者

執行委員長 針谷 歩

2021/1/1 No.13

新年
謹賀

年頭あいさつ

その2 (つづき)

組合員の雇用と利益を守るために、意識の転換を図りながら職場からの挑戦で、黒字経営を目指し、全組合員で新型コロナウイルス感染症防止のさらなる追求と安全・安定輸送の確立を目指していきます。

4月1日より運用が開始された「新たなジョブローテーション」施策により、他地方では本人希望を無視した転勤がなされるなど、本人のキャリアプランとは、かけ離れた実態もあります。私たちは、組合員の夢や希望、安全で働きがいのある職場を守るため、施策の目的を実現するために、労使で議論してきたポイントを振り返り、検証運動を創り出していきます。

私たちは、21年JR春闘を組合員の帰属意識・求心力づくりを課題に据え「雇用・定昇・ベア」の確保を目指し、組合員との対話を積み重ねていきます。

労働者代表組織が制度化の動きもあります。有識の方からは「従業員組織が既に組織化されている企業では、その機能の強弱に関係なく、労働者代表制として機能するならば、労働組合はいらないとするものが多い」と述べています。また、「36協定」、「フレックスタイム制」など協定に関する締結や就業規則の作成・変更について“社員代表者の意見聴取”によるなど、労働組合の機能的役割が形骸化されてしまいます。このような動きに危機意識を持ち、21春闘とあわせて労働組合の必要性を訴え、組織強化・拡大に繋げていきます。

職場で発生する問題は山積しています。一人では意見を言うことが出来ない仲間のために、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の支え合いが大切です。決して、受け身になることなく、「言うべきことは言う」「やるべきことはやる」といった分会体制の再確立を目指します。

私たちは、18春闘に至る過程、総括の誤りを素直に認めます。

また、18春闘総括から逃亡した者からのデマ宣伝活動に惑わされないよう事実の共有化を図ります。それから、元八王子地本執行委員長等に対し、不正利得返還請求訴訟を行っています。JR東労組組合員の利益に反する行為には今後も毅然とした対応をします。

新生JR東労組八王子地本は、常に組合員の利益を第一義にする労働組合主義に徹し、否定的教訓である自分の中に潜む自己保身と官僚化を克服します。この体質改善は、常に現実と向き合い、組合員の声をもとに出発した運動づくりを通じて実現します。また、JR東労組の弱体化を狙う不当労働行為は認めません。あわせて、全てのハラスメント行為を許しません。これらには、職場討議や団体交渉など組織の力で跳ね返していきます。

組合員からの信頼回復を目指し、点在する組合員との接点をつくり、総対話行動などを進めながら求心力を高め、「組合員の駆け込み寺」として新生JR東労組八王子地本の構築を目指します。

寒い日が続きますが、健康に十分留意していただき、本年が皆様にとって良い年であることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



組合員の声から新しい運動を創り出します!

